

注意報

長崎県病害虫防除所長

平成26年度病害虫発生予察 注意報第5号

普通期水稲 トビイロウンカ

1. 発生地域（対象地域） 県内全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 9月上旬の巡回調査（87筆）の結果、発生圃場率が83.9%（平成 47.4%）と平成より高かった（図1）。株当たり虫数は0.7頭（平成 0.9頭）と平成並であった（図2）が、増殖率の高い短翅雌成虫の発生が54圃場で見られ、株当たり虫数は0.2頭と多かった。そのため、今後、9月中下旬以降に第3世代幼虫の発生が多くなると予想され、特に10月中旬以降に収穫する中晩生品種については、坪枯れの発生が懸念される。
- (2) 9月中旬に坪枯れを初確認した。
- (3) 9月3半旬の県予察圃場（無防除）調査の結果、株当たり成虫数は0.9頭（平成0.4頭）、株当たり幼虫数は0.4頭（平成4.6頭）、寄生株率は66.0%（平成 58.5%）であった。また、短翅雌成虫の株当たり虫数は0.5頭であった。
- (4) 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

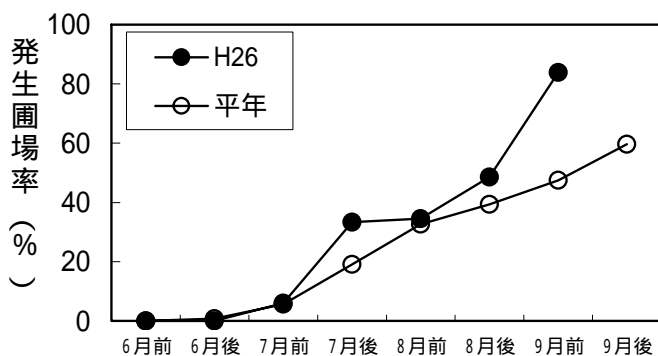


図1 トビイロウンカ(発生圃場率)

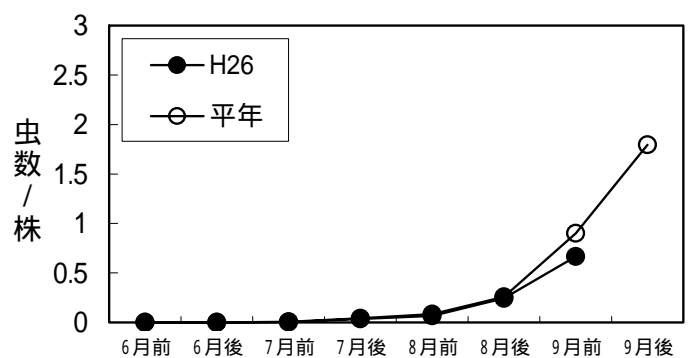


図2 トビイロウンカ(虫数/株)

4. 防除対策

- (1) 穂揃い期の防除実施後もその後の発生状況に十分注意し、9月中旬に株当たり成虫・老齢幼虫を5頭以上認めた場合には早急に防除する。
- (2) 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りがあるので、圃場の見回りを徹底して、圃場全体の発生状況の把握に努め、防除を行う。また、今後の発生予測は図3のとおりであるが、

地域や圃場により発生状況が異なることがあるので、それぞれの圃場における発生状況を把握した上で防除を行う。

- (3) すでに坪枯れが発生している圃場では、被害の拡大を防ぐため早急に防除する。また、多発生圃場で水稲が収穫可能な時期に達している場合は、できるだけ早めに刈り取る。
 - (4) 本虫は株元に好んで寄生するので、農薬散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。
 - (5) 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を遵守する。また、周辺環境を十分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。
-

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

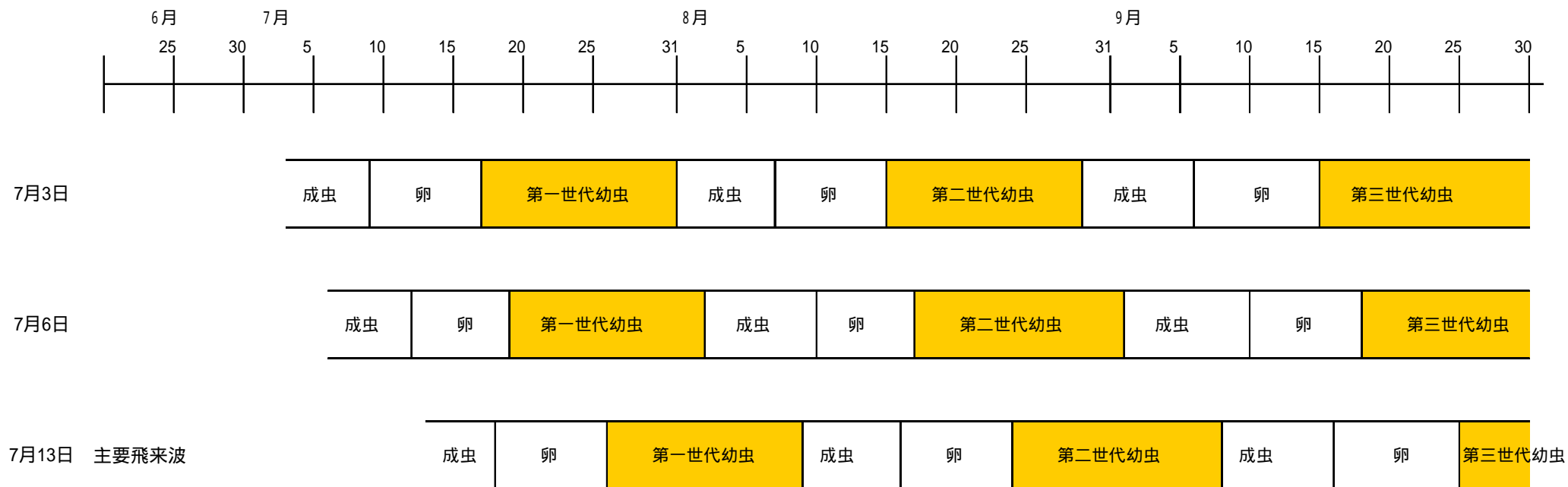
「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

(図3) トビイロウンカの発生予測図(平成26年)

1. トビイロウンカ



発生予測の気温は諫早市貝津町(農林技術開発センター)のデータを用いた(9月15日まで実測値、16日以降は平年値)